PDF Compressor Pro

白岡ニュータウン自治会

自治会だより

2017 新春号

～挨拶と花と緑の明るいニュータウン～
～思いやり、手をかす力、地域の輪～
～守ろう！住環境維持のルールとペットマナー～

新年に寄せて

自治会長　浅井 嘉一

よい新年をお迎えのことと思います。昨年の秋、シンポジウム「ニュータウンサミット」と「暮らしと医療」の懇話会に参加する機会がありました。高度経済成長期、県内各地に展開された〝ニュータウン〟その代表者たちが今日の視点で話し合うもの。懇話会では、少子高齢化に対応する医療の現状と将来にスポットを当てた研究者の講演もありました。

白岡ニュータウンは入居開始から30年近い歳月ですが、マイホームの建設は今でもあります。住宅開発は普通10～15年と短期で建設から販売を済ませるとか、その結果、急激で極端な高齢化の原因も潜み、特有の悩みを抱えていると言うのです。白岡ニュータウンには昨年、3世代のご一家が3丁目に新築入居、この春入居予定の若いご一家もいま2丁目にマイホームを新築中です。ニュータウン全体が幅広い年齢層に…これは稀なことのようです。新しい入居者からは住環境の良さや地域の魅力も聞きました。シンポジウムで私はこの街の特徴と評価を再認識できました。極端な若者不足の地域では、「活動ばかりか自治会の存続さえ危ぶまれる」と高齢化率60％の地区代表が嘆いていました。白岡ニュータウンの高齢化率は26％です。将来お子様のUターンや若い世代の更なる入居と自治会への参加に大きな期待を寄せているのは、私だけではないと思います。

「暮らしと医療」の懇話会では〝若年認知症〟や〝若者たちの老後が危ない〟という聞き慣れない事柄も耳にしました。程度の差こそあれ、避けられない老後や健康問題、深刻な悲劇も紹介され、特に「ご高齢のひとり暮らしは〝健康が一番〟です。周囲の気配りも欠かせないでしょう」と専門家が力説していました。核家族時代とは言え、家族や親族との関わりも「その時になってからでは既に遅いのです」と指摘されました。二つの集いを通してある想いに駆られました、それは〝自宅にて心身共に健康、自分の暮らしをずうっと続けられる幸せ〟そんな白岡ニュータウンでありたい…と。

PDF Compressor Pro

青空市報告

事業部副部長　浅井 園子

昨年12月4日（日）、おだやかな晴天にめぐまれ、青空市が開催されました。

10月から準備を始め、前々日の甘酒の仕込み、前日のあんことき な粉の準備や、餅つきリハーサル等大変でしたが、無事に当日を迎え、お子さんから大人まで多くの方々にご参加頂きました。

3丁目集会所では、杵つき餅の実演と販売。あんこ餅とき な粉餅の人気はもちろん、つきたての素餅もなかなか好評でした。

さくら公園では、フリーマーケット、甘酒の無料サービス等、多くのイベントが開催されました。長野のりんご園直送の蜜入りりんごは、毎年すぐに完売してしまうほど大人気なので、今回はさらに販売数を増やしました。

例年にぎわいを見せる青空市ですが、ご協力下さった多くの班長・役員・ボランティアの皆さん、お忙しい中、どうもありがとうございました。

会場では、彩の国さいたま人づくり広域連合の県庁スタッフによる「街頭アンケート」も実施されました。ニュータウンでの住み心地や高齢化を迎えたことなど、初めての試みで、多くの皆様に貴重なご意見を寄せていただきました。ご協力ありがとうございました。アンケート結果は、後日、自治会のホームページなどでお知らせしたいと思います。

PDF Compressor Pro

南極へ行きました！（後）

～越冬隊の様子～

3丁目　M・F

南極観測隊員の構成は、観測や設営の計画により隊で異なりますが、大きく分けると夏隊と越冬隊に分かれます。越冬隊は約30名程度ですが、大きくは観測・研究グループと設営グループに分かれます。夏隊員は約20名です。観測隊員は3月に乗鞍高原で冬期訓練（雪中キャンプなど）、6月に主に座学となる夏期訓練を経て、観測に必要な物資を調達・梱包し、「しらせ」に積み込み南極に出かけます。「しらせ」の晴海出港を見送り、その後に空路オーストラリアへ向かい、フリーマントルで乗船します。

▶第33次南極観測隊の晴海埠頭出港（1991年11月14日）。当時は観測隊員も「しらせ」で日本を出発した。

1月に昭和基地へ着くと、そこには越冬を終えようとしている前の越冬隊が待ち構えています。それからの約2ヶ月は、これらの隊員とこれから越冬する隊員との間で、様々な引継ぎや夏期間の建築作業等が続きます。困ったことに、この時期は太陽が沈まない白夜であり、作業後に飲んでいると暗くならずに明るくなってしまいます。そして、2月1日は正式な越冬交代式となり、晴れて堂々と基地の運営が次の隊にバトンタッチとなり、夏期隊員宿舎の相部屋生活から昭和基地居住棟の個室生活となります。一夜にしての国盗り物語です。

越冬隊の約半分は観測や研究担当、残り半分は生活の基盤となる設営担当で、発電機・雪上車などの機械隊員、医療、通信、調理、野外行動支援、庶務担当隊員です。観測系は毎年定常的に観測する気象担当（気象庁から派遣）、電離層、地震、地磁気担当など、研究系は宙空、大気・雪氷、地学、生物などの研究プロジェクト担当です。

越冬中の楽しみは何と言っても大家族団らんの食事です。しかし、すべての食料は日本とフリーマントルで購入したものです。昭和基地は年に一回しか観測船が来ない〝島流し〟の越冬生活です。新鮮なものはもやしやカイワレ大根など現地で栽培が簡単な野菜と釣った魚です。すべて持ち込んだ食料で一年間を食いつ

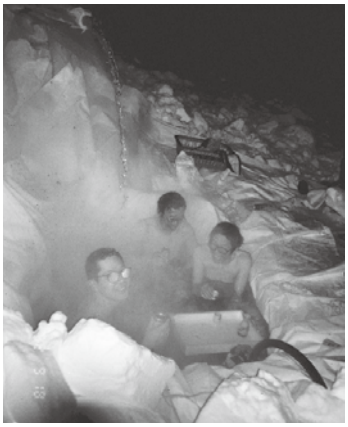
▶昭和基地がある東オングル島と南極大陸の間にオングル海峡が横たわる。昭和基地に接岸した「しらせ」。上空ではヘリコプターによる越冬物資輸送が行われる。

PDF Compressor Pro

南極へ行きました！（後）・心肺蘇生法とAED講習会

なぎ、飲みつながねばなりません。途中で不足しても買いに行くことが出来ません。私は2度の越冬とも日本酒が10月頃に不足し、正月のお屠蘇が心配になりました。日本の夏至は南極の冬至で、6月末から約40日間は太陽が全く顔を見せない極夜です。この時期にはミッドウインター祭りを大いに楽しみながら暗い時期を乗り越えます。これが過ぎると日に日に明るくなり、そのうちに「晴海埠頭からご救免船が出たぞ」との知らせが舞い込みます。そして次の観測隊へと交代します。

越冬生活は一年間で昼と夜が一回あるようなものでしょうか？不思議ですがまた行きたいと思うようになるものです。



▶オーロラの乱舞の下、マイナス30度の中での露天風呂。髪の毛はバリバリ、メガネは凍りつくなかで熱燗。

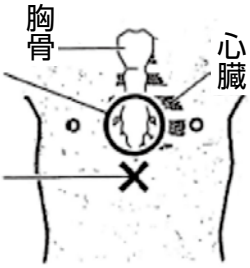
心肺蘇生法とAED講習会

保安部部長　飯塚 牧三

もし目の前で家族の人が倒れ、心停止していたらどうしますか。ただちに119番通報しても救急隊が到着するまで早くても約6分かかるそうです。この間に、応急処置を続けているかどうかで、救命率は格段に上がるとのことです。当自治会ではこのような状況を想定した講習会を白岡市消防署隊員の指導により、9月24日（土）に実施、15名の方が受講され「普通救命講習終了証」を手にしました。

今回の講習会ではビデオと実技をセットにしたことで非常にわかりやすい講習会となりました。内容は「気道の確保」「人工呼吸」「胸を押す（心臓マッサージ）」「AEDの使い方」等を学びました。

心肺停止になった人の命を救うのは第一発見者である人の責務です。この講習会は毎年継続していきますので、今回受けられなかった方、3年以上経過している方はぜひ受講してください。



- 押すのは胸の真ん中（乳首と乳首の間）。胸骨がある硬い部分
- やわらかいみぞおちは押さない
- 胸が5センチ沈み込むように
- 1分間に100～120回のテンポで例）「どんぐりコロコロ」のテンポ

朝日新聞より

PDF Compressor Pro

ごみゼロ・クリーン運動に参加して

環境部副部長　横山雄一

11月13日のごみゼロ・クリーン運動に多くの方が参加され有難うございました。

今年環境部の役員になり、この運動が自治会・班長そして当日参加された方々の努力によって成り立っている事がよくわかりました。

新白岡に来る前に色々な住宅街に住んでいましたがこのような積極的な自治会はないと思います。参加型の多くの企画があり、新白岡に住んで良かったと思います。

みんなで取り組んだ歳末警戒

保安部部長　飯塚牧三

すっかり定着した歳末警戒、今年も拍子木を合図に参加者全員が「戸締りしっかり火の用心！」の掛け声を掛け合い、ニュータウン内、隅々まで響き渡らせることができました。毎年12月27日（昼と夜）と28日の両日行われている伝統ある行事です。27日の夜は雨により中止になりましたが、累計で大人１２９名・子供23名の参加を得て延べ２回行いました。

保安部、役員が中心となり子ども１１０番の家、パトロール隊、交番の警察官も協力してくれました。一回目は児童と子ども１１０番の家との交流の場として、二回目は、そば愛好家による美味しい「そば」を味わっていただきました。

年の瀬といった慌ただしい時期にもかかわらず多数の参加を得て行うことができ、感謝しております。今後とも、保安部は第一に住民の安心・安全を、第二に笑顔の溢れる街づくり目指して取り組んでいきます。

皆さんのご理解ご協力をお願いします。

パトロール終了後の「平成そば」の風景

PDF Compressor Pro

白岡ニュータウン自治会
自治会だより
2017年 新春号
2017年2月1日発行（年3回発行）発行・白岡ニュータウン自治会　制作・広報部

隣の町内会③　高岩行政区

隣の町内会③

高岩行政区

自主防災会会長　田口　隆

皆様こんにちは。高岩行政区自主防災会の田口　隆と申します。

高岩行政区自主防災会設立について紹介させて頂きます。その前に、平成27年度白岡ニュータウン自主防災会様が埼玉県知事表彰を受賞されました事、誠におめでとうございます。

高岩行政区は、1区（225世帯）、2区（350世帯）、計575世帯です。この地区には、今まで防災に関する組織がなく、近年、『どうしたもんじゃろの～』と言う意見がちらほら聞かれておりました。特に東日本大震災を始め、熊本地震や近年近隣の地域で発生する竜巻と、大地震には至らないものの不安な被害も頻繁に発生しております。

近年高岩地区は若い世帯の増加も著しく、その反面、高齢化も進んでいるのが現状です。各地区のお年寄りから、『これ以上歳をとったら自分1人ではどうにもならなくなってしまうので、何とか防災組織を作ってくれないか』と言う声が一段と高まり、平成26年12月1日、高岩行政区自主防災会を設立することができました。最初は少人数で立ち上げ会議を重ね、高岩地区全体の皆様から基本的な賛同を得ました。その後、人数を増やし更なる会議を重ね、約1年を費やし正式に発足の運びとなった訳です。

当防災組織は、顧問・監事を始め高岩6地区（野中、六軒、上宿、田端、本村、下宿）、役員61名の組織となりました。平成27年度は白岡消防署のご協力を頂き、初めて独自の防災訓練を実施しました。住民247名の参加のもと、消火訓練・煙体験・救出救護訓練等を実施、無事終了し、役員一同ホッとした次第です。

平成28年度も若いお母さんや子供たちに多く参加していただき「AEDの取り扱い方」や「消火器の取り扱い方」「毛布を使用しての担架の作り方」など、住民のみなさんから『たいへん勉強になり、本当に良かった』との声を頂き、防災会の会長として心が和んだ記憶が今になって蘇ってきます。

編集後記

地域のつながりが希薄になっているといわれて久しいですが、自治会だよりの編集作業に携わっていますと、ニュータウンにお住まいのひとりひとりが、より良い街になるよう手を携えて尽力してくださっていることを実感します。これからも積極的に地域の情報を発信して参りますので、ご協力をお願いいたします。（伊）

発行　白岡ニュータウン自治会　会長　浅井嘉一　　埼玉県白岡市新白岡2-17-14　　TEL/FAX 0480-93-5133
URL/http://shiraokanewtown.web.fc2.com/member/toppage1.html